

米報道、オスプレイ疑義

【平安名純代・米国特約記者】AP通信は、2019年から23年までの5年間の米軍輸送機オスプレイの事故調査報告書や飛行データを調べ、事故の多くはエンジンなど機体の設計上の問題に起因していると報じた。米軍が運用を継続している状況に「依然として疑問が残る」と否定的な見方を示している。

5年間を分析

AP通信「機体に事故要因」

AP通信は米最大の通信社。情報公開法を通じて数千ページに及ぶ事故報告書や飛行データを手に入れた。さらに18%増え、乗員がエンジンでクラッシュしたと指摘した。

オスプレイの重大事故は、5年前と比べ46%増加したと指摘した。安全に関する問題は全体で72件を、乗員がエンジンでクラッシュしたと指摘した。

にオスプレイの乗員や技術者など50人以上を取材し、総合的に分析した結果を19日に報じている。オスプレイの重大事故は、5年前と比べ46%増加したと指摘した。安全に関する問題は全体で72件を、乗員がエンジンでクラッシュしたと指摘した。

AP通信は総飛行時間が19年5万8077時間から23年3万7670時間と大幅に減少する一方、重大事故数は増えたと強調し、信憑性に疑義を呈した。具体的な事故数は示していない。空軍オスプレイは、飛行時間が減少したにもかかわらず、重大事故の発生率は他の軍用機よりはるかに高いと指摘した。

米軍オスプレイ一時停止

事故、緊急着陸受け

米海軍航空システム司令部は6日（現地時間）、米軍が使用する全種類の輸送機オスプレイの一次的な運用停止を提言した。司令部が9日、共同通信の取材に明らかにした。最近の予防着陸の事案を

受けた念のための措置だと説明。海兵隊と海軍、空軍が提言に応じ、運用を停止した。

ない事故があり、昨年11月に鹿児島県・屋久島沖で米兵8人が死亡した墜落事故との類似点が判明。各地で事故が相次ぐオスプレイの安全性が改めて疑問視される事態となった。防衛省によると、米

海兵隊のMV22オスプレイ24機が所属している。一方、普天間飛行場には米海軍のCMV22が8日に2機、飛来し

た。嘉手納基地は7日以降、各種オスプレイの離着陸は確認されていない。在沖米海兵隊は取材に「第1海兵航空団は（飛行一時停止の）指示に完全に従う」と答えた。

米空軍が8月に公表した調査報告書によると、屋久島の事故機は変速機の内部で歯車が破断し、破片で別の歯車がすり減ってローターに動力が伝わらなくなり、墜落した。

10月下旬に与那国駐屯地で起きた損傷事故の再発防止策を取った上で、11月15日に飛行を再開したばかりだった。陸自は「安全確保を最優先した」と説明している。

陸自機も当面見合わせ

米軍が輸送機オスプレイの運用を一時停止したことを受け、陸上自衛隊は10日、災害対応などの任務を除き、全17機の飛行を同日から当面の間見合わせると発表した。陸自は

自衛隊は10日、災害対応などの任務を除き、全17機の飛行を同日から当面の間見合わせると発表した。陸自は

今年3月、飛行を再開した。だが10月23日、日米共同訓練に参加中の陸自機が海上自衛隊の鹿屋航空基地（鹿児島）に緊急着陸した。

出典：「琉球新報」2024年12月11日付より